

サポート
メカニック
対談

NAKAJIMA RACINGを支える 二人の仕事観

レースウィークは何が起こるかわからないタイトなスケジュール。
レース中のタイヤ交換には多くの人手が欠かせません。
今回は、SUPER GTでNAKAJIMA RACINGを支えるサポートメカニックのお二人に、
プライベートな一面からチームの裏側、あの人の印象までお話を伺いました。

—まずは自己紹介からお願いします。

伊藤：伊藤大河と申します。神奈川県大磯町でクラシックカーのレストアや修理をしています。NAKAJIMA RACINGでは、GTマシンのリアセクション、特に足回りのセット変更を担当しています。ピットに車が入ってきて外装を外し、曲がる、止まるといった性能に関わる部分を後ろ側で整備しているイメージですね。子どもたちにも伝わりやすく言うと、「車が速く、しっかり走れるように足回りを調整する係」です。

青木：青木健治と申します。僕はもともとダンロップタイヤの販売店、いわゆるタイヤ屋さんで働いていました。そこでタイヤ交換などをしていたのですが、退職して、今は兵庫県尼崎市で整備工場を一人でやっています。車検、事故修理、コーティングなど、街の車屋さんとしていろいろやっています。レースの現場にはスポットで参加していて、GTでは給油とフロント周りの点検を担当しています。

—現場での役割と、仕事で大事にしていることを教えてください。

伊藤：僕はリア側の足回りのセット変更がメインです。時速300キロ近く出る車なので、とにかくボルトの締め忘れは絶対にあってはいけません。自分のミスで車が大破するなんてことは絶対に嫌なので、その一点は常に強く意識しています。

青木：GTの現場では給油がメインで、あとはフロント周りの足回りやボルトが緩んでいないかのチェックをしています。たくさん的人数で1台の車を見ているので、「やった」「やってない」の確認やコミュニケーションがとても大事です。聞きづらいこともありますけど、聞かないと仕事にならないので。質問する前に、まずは自分の目で見て判断する。その上で必要なこと

はしっかり確認する。そういう「気づき」は大切にしています。

—サポートメカニックという立場で、チームの社員メカニックとの関係やコミュニケーションはどうですか。

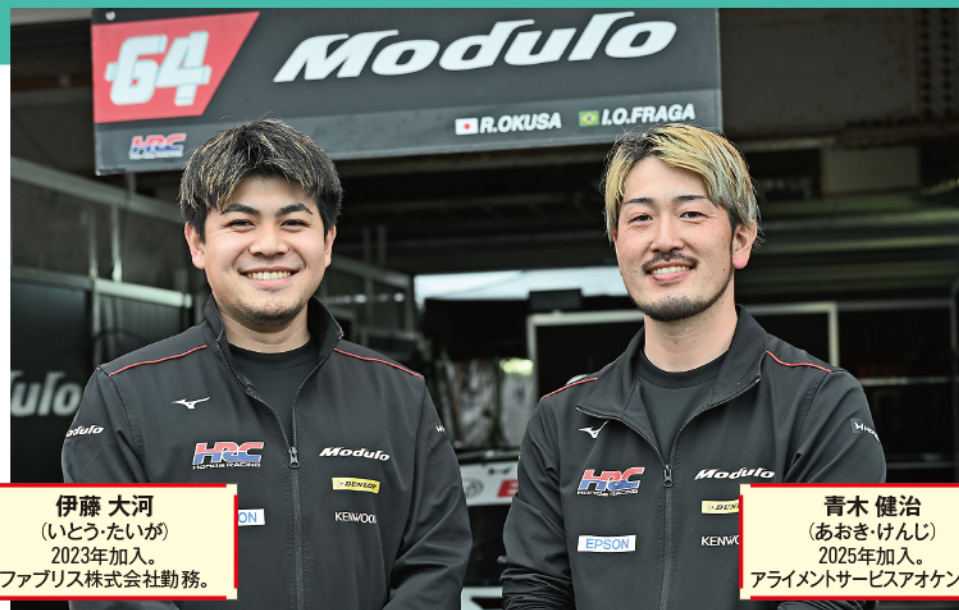
伊藤：普段、工場でメンテナンスしている期間は一緒にいないので、サーキットに来たときに「前回と仕様が違う」「整備の手順が違う」ということもあります。だからこそ、走行セッションが始まる前になるべく確認して、作業中の行き違いで時間をロスしないように心がけています。壁があるという感じではなくて、確認を丁寧に積み重ねている感覚ですね。

青木：僕らはこのチーム以外の現場にも行くので、チームごとにやり方が違うことも多いです。それでもNAKAJIMA RACINGはコミュニケーションを取りやすい雰囲気がありますね。外から見るとクールな印象があるかもしれませんが、現場ではとても真面目で、静かに責任感を持って仕事をしているチームだと感じます。

伊藤：初めてファクトリーに行ったとき、まず驚いたのが「とにかくきれい」なことでした。床も汚れていないし、機材も整理整頓されている。1日の終わりには必ず掃除の時間があって、それが毎日徹底されている。勝つためのこだわりが、そこにも表れていると思います。

青木：レース後の撤収の早さでも有名ですね。みんなの役割分担がはっきりしていて、どこに何をしまおうか決まっている。長くレースを続けているチームだからこそ、どのサーキットに行っても再現性のある片付けができていたのだと思います。

—中嶋代表や伊沢監督について、印象を教えてください。



伊藤 大河
(いとう・たいが)
2023年加入。
ファブリス株式会社勤務。

青木 健治
(あおき・けんじ)
2025年加入。
アライメントサービスアオケン勤務。

青木：普段の中嶋さんは…言っているのかな(笑)。本当に「可愛いおじいちゃん」です。いつもニコニコしています。

伊藤：そうそう、本当にそうです。最初はクールな方という印象だったんですけど、レースになると無線で話す機会も増えて、レースや勝負事が本当に好きなんだと感じます。一方で、レース以外の場面では笑顔がとても可愛い。年齢的にも、僕からすると祖父と孫くらいの差なので、いい意味で「可愛いおじいちゃん」として見てしまいますね。ほっこりします。伊沢さんは、ドライバーのときから話しかけやすい方だなと思っていました。ドライバーって、どうしてもドライバー同士やチーム上層部とのコミュニケーションが中心というイメージがあるのですが、伊沢さんはスタッフ一人一人、年上から僕のような若手まで気にかけてくれます。監督になってからも目線の高さが近くて、何かあったときに相談しやすい存在です。

青木：僕も同じ印象です。見た目はクールですが、話してみるととてもコミュニケーションが取りやすい方ですね。

—最後に、今シーズンの目標と、お二人自身の働き方について教えてください。

青木：チームとしては、もちろん表彰台、優勝、

そしてチャンピオン争いに加わることを目指しています。僕自身は、ミスなくしっかりと仕事をして、チームの勝利に貢献したいです。将来的にチームに入らないか、という話をいただくこともあります。僕は独立を選んだタイプなので、組織に入り込むよりも今のスタイルが合っているかなと思っています。関西在住で家庭もありますし、自分の工場も大事にしながらレースに関わり続けたいです。

伊藤：僕も「社員としてがつっすり」というよりは、サポートメカニックだからこそのいろいろなチームや車に触れられるのが魅力だと思っています。将来は実家の家業を継ぐ予定で、クラシックカーとレーシングカーは似ている部分もあれば全く違う部分もあるので、両方から技術を学んでいきたいです。今シーズンはダンロップさんと一緒に戦う最後の年になるので、1勝でも多く勝って有終の美で終わりたいですね。僕もチーム3年目で、求められるレベルが上がっているのを感じています。その期待に応えて、「NAKAJIMA RACINGにとって伊藤という存在が必要だ」と思ってもらえるように、一生懸命頑張りたいです。

—ありがとうございました。今シーズンのご活躍を楽しみにしています！